



理事長 岡部 憲昭

皆様におかれましては、益々御健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は遠賀信用金庫に対し、格別のご愛顧、お引き立てをいただき、誠にありがとうございます。

ディスクロージャー誌“ONSHIN REPORT 2018”が完成いたしました。今年もかわいいメチャくんファミリーが、遠賀信用金庫の業績や活動についてわかりやすくご紹介しますので、ぜひご高覧賜りますようお願い申し上げます。

さて、わが国の経済は、アベノミクスの推進や世界的な景気回復の流れに浴して長期間にわたって緩やかな回復基調を続けております。しかしながら、深刻な人手不足が懸念されるほか、アメリカの金融引締め政策の進行やトランプ政権への不安感などの政治リスクをはじめ、北朝鮮や中東の地政学的リスクなど、先行きの不透明感はさらに増大しております。

当地域におきましても、景気の緩やかな回復は続いているものの、中小企業の多くは人手不足や後継者問題などを抱え、厳しい経営環境下にあります。長期にわたる「異次元緩和」にも関わらず、前向きの投資需要は盛り上がり欠け、だぶついた資金の多くは、不動産投資や金融機関同士の低金利競争に向かっていると看做されるを得ません。

そのような中、遠賀信用金庫は、中期計画「おんしんの5年後の姿」の最終年度である平成29年度において「高い地域貢献度の実現」を目標に掲げ、金利に勝るサービス「利回りより身の回り」の推進をはじめ、様々な取組みを展開してまいりました。

創業支援につきましては、「おんが創業支援協議会」の活動を中心に取り組んだ結果、順調な創業実績を上げることができました。また、地域の明日を担う若手経営者の育成を目的とした「おんしん未来創世塾」も、新たに5期生を迎え、規模も内容も充実してまいりました。さらに、遠賀信用金庫で公的年金をお受取りいただいているお客様を会員とする「おんしん おむすび会」も、会員数を着実に増加させるとともに、北海道へのふれあい旅行をはじめ、博多座や博多新劇の観劇、そば打ちなどを通じて、会員同士のつながりをさらに深めることができました。

なお、昨年7月には「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録が決定し、3年間取り組んでまいりました応援活動がやっと実を結びました。今後は、この郷土の宝を全国に発信していきたいと思っております。

平成29年度の決算につきましては、長期化する異次元の金融緩和政策の下、大変厳しい環境ではございましたが、当期純利益は、1,020百万円と高い水準を確保することができました。ご預金に対するご融資残高の割合である預貸率は、60.61%で、引続き業界平均を大きく上回りました。金融機関の健全性を示す自己資本比率は13.86%と、国が定める基準(4%)を大きく上回っております。

会員の皆様には、本年度も業界の最高水準である8%の配当をさせていただくことになりました。

遠賀信用金庫は、「スモール イズ ナイス」の合言葉の下、「お客様の役に立ち、お客様から選ばれる、地域のベスト金融機関」を目指し、地域の皆様のご期待に応えるべく、役職員一丸となって懸命に努力して参ります。

今後とも、遠賀信用金庫に対し格別のご厚情を賜りますようお願い申し上げ、皆様のご繁栄、ご健勝を心よりお祈り申し上げて、ご挨拶といたします。

平成30年7月